

令和4年9月7日

校長室だより

今年度第4号(通算25号)

座間市立相模中学校
校長 金子 憲勝



とても嬉しいお知らせ～調査結果から分かったこと～

先日とても嬉しいお知らせが、届きました。それは何かというと、今年の4月に全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果です。昨年より、大分早く結果が学校に届いたのですが、今年度実施した国語・数学・理科において、どの教科も全国・県・市の平均正答率より高い結果で、日頃の授業が概ね身につけていることが分かりました。これは、昨年度の3年生とほぼ同じ結果で、とても嬉しい報告でした。では、なぜ良い結果に結びついているのかについて、私なりに分析した内容を以下に載せます。

- ① 生徒一人一人、学習が定着するように努力しているからです。授業中の生徒の様子を見ると、先生から出された質問に対して真剣に考えている姿をよく見かけます。「聴いて、考えて、表現する」ことができるようになり、力が付いてきています。
- ② 教員が、継続して校内研究会で取り組んでいる授業改善が成果を上げているからだと言えます。本校では、ここ数年横浜国立大学の教授に來校いただき、授業に関する助言をいただいています。現行の学習指導要領が求めている「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践し続けられるように、教員自身が勉強しています。
- ③ 続いて、今年度の校長室だよりの第1号に載せたとおり、神奈川県教育委員会と座間市教育委員会から許可をもらい、数学では2・3年生が少人数指導を行い、英語では1年生が少人数指導と2年生がTT（ティームティーチング）で授業を行うことができます。この授業を行うためには、通常の教員定数より教員を増やしてもらっているので、県教育委員会と市教育委員会の配慮に感謝しています。
- ④ 地域の協力も大きいと思います。校長室だよりや学校のホームページに、地域で学習支援をしてくださっている団体や子ども食堂の団体を紹介していますが、地域の子どもたちに対して温かく支援してくださる方々が増えています。その結果として、放課後や休みの日に学習支援等を受けている生徒が増え、良い結果に結びついています。座間市社会福祉協議会や地域の方々の支援や協力の成果だとも言えます。



第2回学校運営協議会について

先週の金曜日の夜に、相模中学校区の第2回学校運営協議会を開催しました。5月に配付した校長室だよりに掲載したとおり、「学校運営協議会を設置した学校のことをコミュニティ・スクール」と言い、今年度から市内の全ての小・中学校がコミュニティ・スクールとして動き始めています。今年度の協議会のメンバーは10名で、皆さん相模中学校の応援団として生徒のことを真剣に考えてくださっている方々です。特に現在取り組んでいることは、学校で人手を必要としている活動のボランティアを呼びかけ、手伝ってもらっています。また、環境整備やイベントについての話し合いを行い、PTAや地域の方々と連携しながらこれらの活動を行ってくださいます。学校の応援団として活動してくださっているので、大変心強い組織です。なお、裏面にコミュニティ・スクールに関する資料を載せておきますので、ご覧ください。